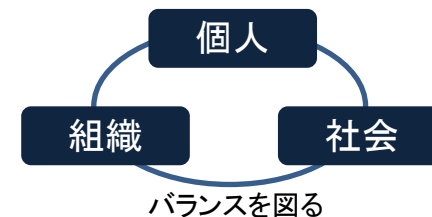


# 組織を定義する

## 組織存在の前提

組織は社会に在って、社会の一つ以上の機能を果たして存在する。  
 社会がなければ組織は存在しない。—組織だけで社会は構成されない。



### 組織存在意義

社会機能

社会問題の解決

組織の特異

資源提供

### 組織人材

知識の集約

意識の集合

生活基準を構築

### 組織システム

生産性のスタイル

継続・発展を図る

知識集約のスタイル

### 組織の存在意味についての定義

- 《社会機能》 組織は、社会の機能を果たす。故に、社会での機能を示し、社会で具現化するものを明らかにしている。組織ミッションと事業定義を明らかにしている。
- 《組織特異》 組織の特異を持って、社会の機能を果たす。故に、組織特異を明らかにする。組織特異を突き詰めていこうとする。
- 《資源提供》 組織の特異をもって、社会の発展を進めていく。組織は社会に資源を提供する。
- 《社会問題の解決》 特異をもって、社会の問題に取り組み、解決していく。

### 組織人材に対する定義

- 《意識の集合》 組織は、共通の目的、共通の価値観を持つ人々が集まっている。
- 《知識の集約》 今や組織は、人材がもつ知識を集約し、彼らの意義を満たさねばならない。
- 《生活基準を構築》 組織活動を通して、人材の生活を規定し、社会の生活スタイルを提案する。

### 組織の形態についての定義

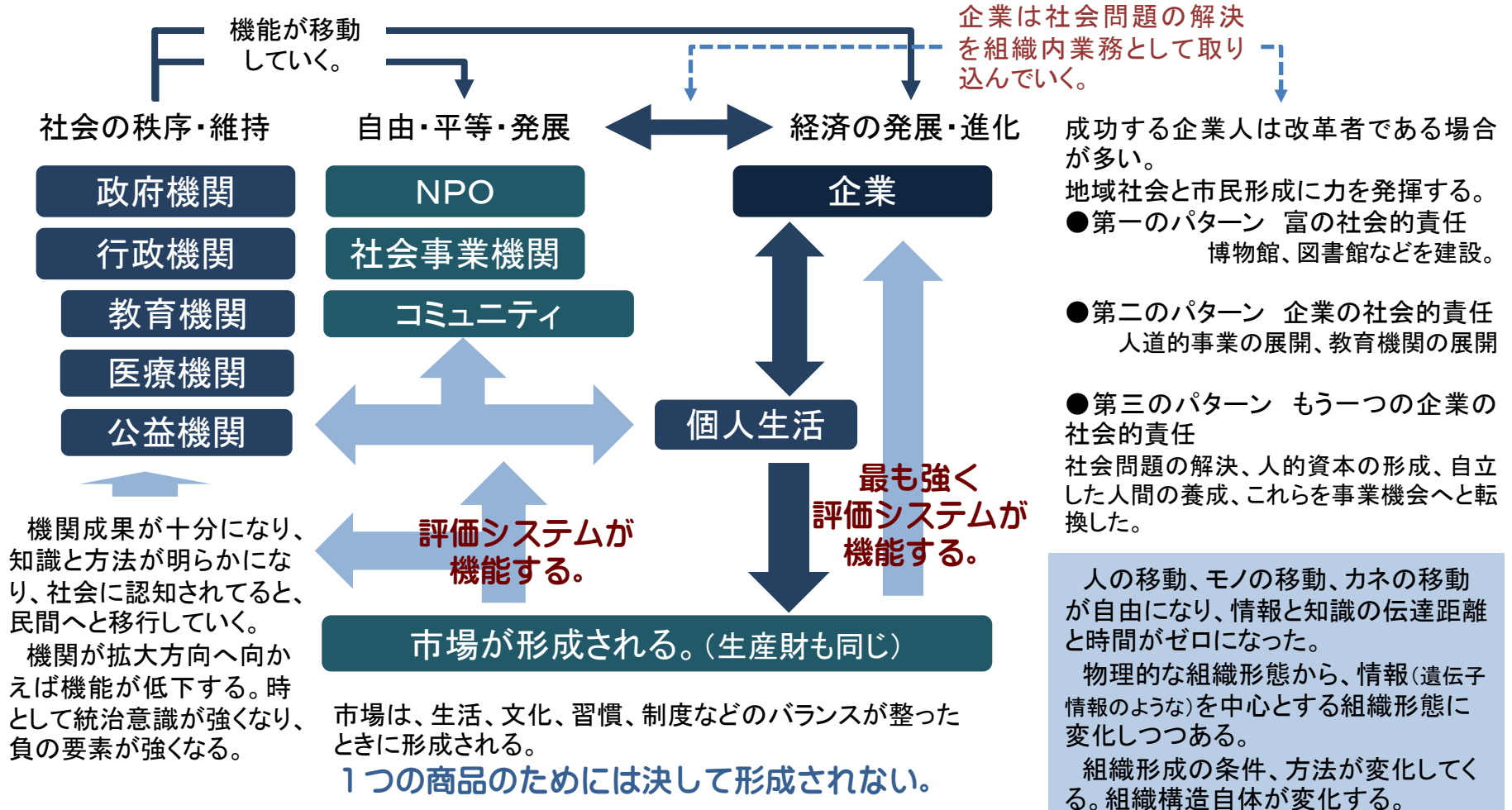
- 《生産性のスタイル》 組織は、何らかの生産性のためのラインを持つ。
- 《知識集約のスタイル》 組織は、人の知識・技術、労働を持って、組織の機能を果たす。組織人をまとめるシステムを持つ。
- 《継続・発展を図る》 組織は、社会機能を果たし、人材の生活を維持発展させ、組織自身の継続・発展させるシステムを持つ。

これらは、すべての組織について、整えられているはずである。

# 社会に存在する組織の分類

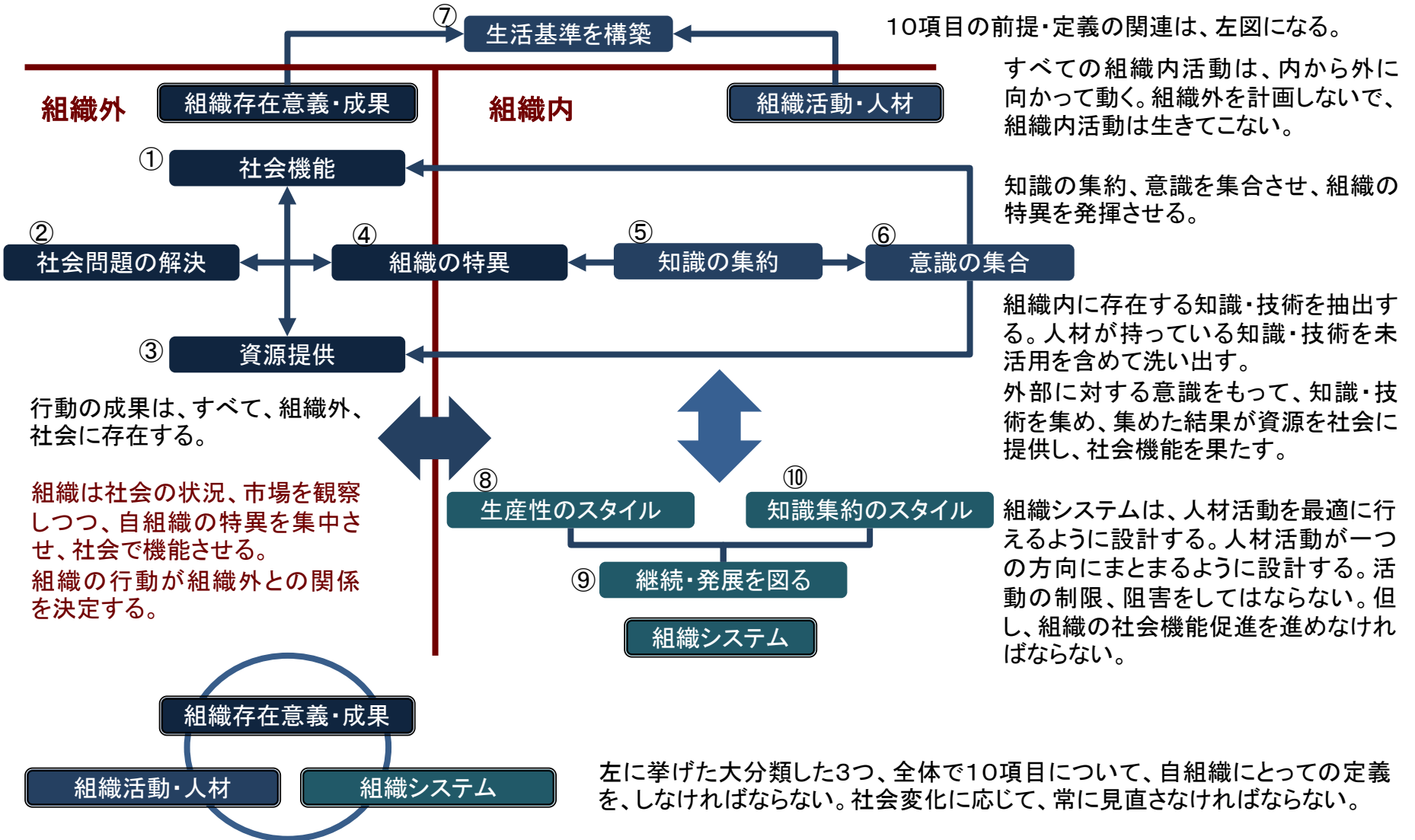
組織は社会にあって、社会の機能の1つを果たす。

企業は、社会にある市場を通して、存続を賭けた評価を常に受けている。



# 組織が力を発揮する方向

それぞれの組織が、個々の組織を特定できるように、自らの事業を表現し、実現しなければならない。



# 組織活動の方向と目的

社会の状態によって、組織活動の方向と目的が変化し、方法が確定される。



「自由」「平等」「平和」「発展」「安全」は社会が成立する原則であり、人の活動の前提である。但し、正統と正当での意味は違っている。正統性は、地域、文化によって違い、組織活動の範囲が影響される。地域社会の正統性についての理解が必然になる。

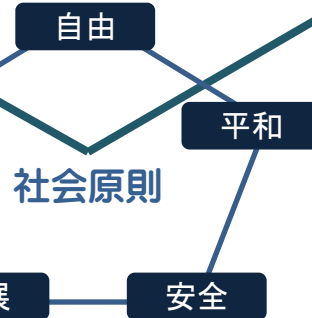
時代によって、科学進歩によって、5つの意味が変化する。

正統は正当へと進んでいくはずである。

コンピュータの出現、IT技術の進化によって、情報と知識流通に、ボーダーレスが起こった。情報と知識の流通は、距離と時間をゼロに近づけた。

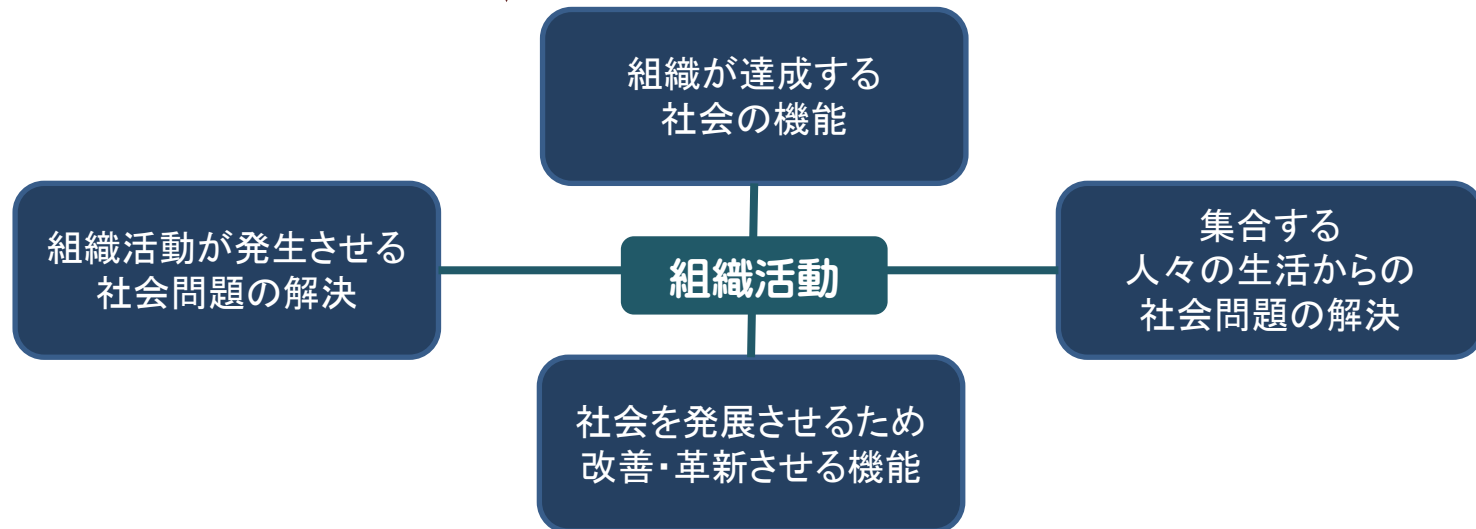
人、モノ、カネの移動が自由になり、文化を始めとして、意識が混合し、進歩のスピードが速くなっている。意味、価値観の変化が起こり易くなっている。

組織活動は、社会の変化に適応していかなければ、組織の継続が困難になる。



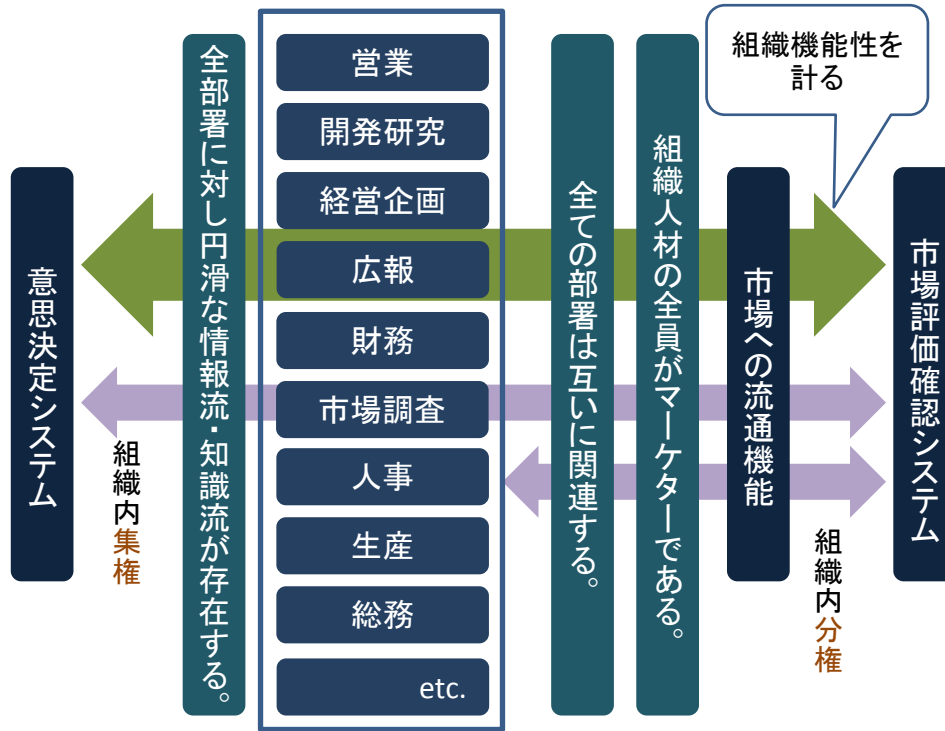
組織活動は、社会原則を前提にして、下記の4つの役割が存在する。

組織活動の是非、組織活動が及ぼす社会への革新が、正統の意味を変える。



# 組織構造

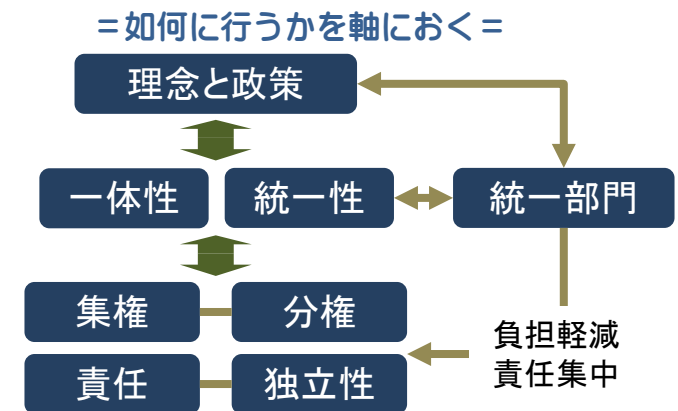
組織構造は、もっとも効率よく機能させる形が良い。階層が増えれば、伝達機能が衰弱していく。



- 階層は無少ない方が良い。組織内の情報流、知識流が障害なく円滑であれば、職階は少なくなる。
- 人の管理、指揮系統は、知識を中心にした組織では邪魔になる。
- 組織人材のすべてがマーケターに成り得るシステムを構築する。社外データを取り込み、社外データの有効性を示せるようにする。
- 組織内障壁をなくすようにし、情報流が円滑になるようにしなければ、社外データは流通しない。
- 組織機能を組織外(市場&社会)に発揮させるところに主眼を置く。
- 仕事の成果を上げるために、権限と責任、自由を理解し、個々の仕事との関連を明確にする。
- 市場での成果、満足の変動が、各人材に分かるようにする。行動変化と市場成果との関わりを表す。

## 組織内の集権と分権を組み合わせる

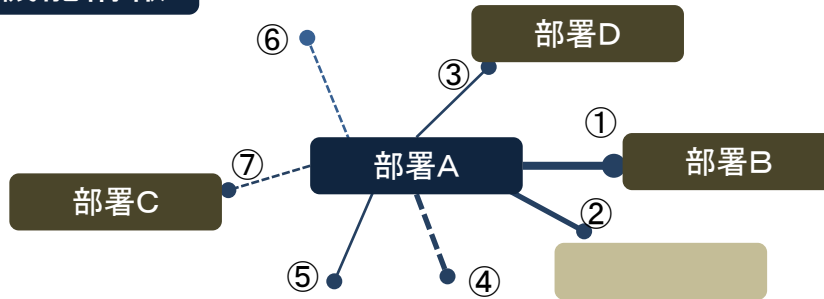
- 規模が大きくなるに従い、集権から分権にする必要がでてくる。
- 知識労働者が増えると、彼等の知識と技術、経験に基づいて政策ができる。
- 一体性を持たせる範囲と、部門別の責任と権限の範囲を明確にする。
- 分権はリーダーを育成しやすくなり、成長性が計れるようになる。
- 分権の仕組みによっては、市場評価を直接受けられるようにできる。
- 分権と集権を組み合わせることで、最終責任の所在が明確になる。
- 分権は部署間、事業部間の障壁が小さくし易くなる。(本来はなくさなくてはならない。)



# 遺伝子情報となる部署業務

1部署の業務や機能が他の部署に影響し、他部署の機能を誘発する。

## 組織内機能情報



多数の部署同士が影響し合い、連携する。1部署の機能が、他部署の業務を促進する。組織は、物理的連結から生物的連結へと変形し始めている。知識が業務の中心になり、業務の意味がつながっている。情報組織となる所以である。組織が情報組織としての認識を持つとき、外部情報が組織内を円滑に巡り、成果を上げる。

1つの部署には必ず複数のアウトプットの出し方があり、他の部署からの要求がある。同時に、自部署が他部署に対して要求している事柄がある。以下のように分類され、他部署に対しての関連性を示し、他部署の業務を規定している。

- ①主たる業務で、部署名を代表する。次の工程を引き渡すための結果、または、外部へ出す最終段階になる商品またはサービスである。
- ②主力業務と交代できそうな内容で、すでに、主たる業務と並立しつつある。
- ③特殊な業務 支援的業務で、主たる業務を進めていて発生した。
- ④検討中の手法、技術、アウトプットで、業務の方法を変える可能性がある。
- ⑤失敗した業務の方法や結果。DBとして蓄積されているはずである。
- ⑥終わってしまっているが、未だに執着している技術、結果の出し方である。しかし、何かの機会に使える可能性がある。
- ⑦主たる業務になる可能性があるが、現在の状態では未熟である。何かを付け加えれば、業務として成立するかもしれない。 etc.

**組織内障壁は、組織の力を弱めるだけでなく、組織の存在を危うくする。組織内障壁を徹底して排除するようにしなければならない。**

営業

開発研究

経営企画

広報

財務

市場調査

人事

生産

総務

etc.

大雑把に組織に存在する部署を挙げた。名称、部署区分は組織によって異なる。

それぞれの部署から他部署を眺めて、関連性を検討してみる。すべての部署は、他のすべての部署と何らかの関係があるはずだ。関係性の強さは別にして、どれかがなくなれば、業務に支障をきたすはずだ。

むしろ、関係が無いとする者が、自らの職務を理解していない証しになる。

各部署は他部署と如何にかかわっているかを検討してみると良い。

自部署が他部署に関わっている内容、他部署から、自部署を支援している内容を列記してみる。列記した内容をみれば、業務内容と進捗、考え、行動、成果を伝えるべきであると理解できるはずだ。(情報組織になる要である。)

名称は50音順

# 組織の特異を見いだす

下記の5つの問いは徹底して検討する、考え抜く。

## I. 我が社のミッションは何か。

ミッションは、具体的であり、我が社の特異を表しているか。作りだしているモノではない。社会で機能している事柄である。その機能は、我が社が他社と比べて卓越しているところから始まっている。ミッションは、常に徹底して考えねばならない。

## II. 我が社の事業は何か。

ミッションと事業とは異なる。ミッションを商品や行動に具現化させ、知識・技術を集中させ、市場、社会で機能している姿である。人材が活動するあるべき姿も含まれている。

## III. 我が社に必要なとする知識は何か。

モノを生産するための知識だけではない。これは当然必要とする。生産できる知識を持っていても社会で機能しなければならない。我が社が発展し、成長するために必要な知識は何かである。

## IV. 我が社が卓越すべきことは何か。

他社にはないものを持っているはずである。集中している事柄があるはずである。そこに卓越している事柄がある。卓越の要素はおそらく一つではないだろう。要素が混合されて卓越する。

## V. 我が社の理想形とは如何なる状態であるか。

組織形態は理想から作られるはずである。商品開発、構築も理想からスタートしている。理想形が社内外が支持しているはずである。その理想形を少なくともイメージしておく。

5つの問いの答えを導きだし、組織内の指針にする。

「組織の特異は何か」を徹底して検討し組み立てる。

解が出てこなければ、人材に求めるべき知識・技術が絞れない。特異を持つ故に、優秀な人材を集められる。

- ・組織が自立できる。
- ・優秀な人材が成果を上げられる。
- ・社会に機会が見いだせる。
  
- ・社会に成果を見いだせる。

### 弊社 (SeedWin) の核になる知識と技術



弊社の特異は、3つ知識と技術を混合し、商品とサービスを創り出す。